

競技委員会議事録

日時: 2018年9月15日 10:00~17:00

場所: NASAショップ2階

参加者: 板垣委員長、牟田園、田中、鈴木あきこ、大澤理事、鈴木由路(議事録)

[前回の持ち帰り事項の振り返り]

(板垣)

- ・オンラインコンテストで表彰する人数(予算)についてJHFに確認する
→フレキシブル、リジットで各上位3位まで表彰されるように予算を確保した
- ・カテゴリ2申請料を競技委員会の予算から捻出できないか委員長会議で起案する
→2018年度の委員長会議で再度起案する(板垣)
- ・緊急時対応連絡網にJHF会長の連絡先を記入してよいか確認する
→確認して了承済み
- ・競技委員会専用携帯電話の予算を申請する
→2018年度の委員長会議で再度起案する(板垣)
- ・クラスVの代表選考(ローカルレギュレーションを確認して選手に打診する)
→対応済み

(牟田園)

- ・規則全般の見直し
→対応済み
- ・「GPSについて」の見直し
→対応済み
- ・競技委員会専用携帯電話を用意する
→対応済み
- ・大会運営マニュアルの作成(大会準備リストを仕上げる)
→他のタスクを優先させるために見送る
- ・タスクストップ時にFSで集計ができない問題を開発者に問い合わせる
→後日確認する(牟田園)

(鈴木由)

- ・TwitterとFacebookの連携確認
→連携は完了したがFacebookの仕様変更で2018年8月から連携できなくなったリアルタイムの情報発信はTwitter、それ以外の情報はFacebookで使い分ける

(野尻)

- ・2019世界選手権の選抜ランキングと選抜ルールのをまとめを年度末までに告知する
→対応済み
- ・緊急連絡先カードを作って板敷の大会でトライアルしてみる
→対応済み

(田中)

- ・HPのトップ画像を差し替える
→今年中必ず対応する

(共通)

- ・2023年度世界選手権の選抜から選抜基準を国内ランキングに一本化する方向で検討を開始する
 - 検討項目
 - ー 海外ポイントの計上
 - ー ワイルドカードの扱い
 - ー 計上対象年度(単年or複年)
- ・承認フローの改善
 - チェックの負担を軽減するために、申請書類の競技規定はローカルルールに限定するように主催者に促す(田中)
 - 体験会の承認は競技委員会以外(スクール事業、振興、安全性)に移管できないか委員長会議で起案する(板垣)
 - 5人中3人の委員から確認が取れれば承認とする
- ・緊急連絡カードの運用
 - ー 緊急連絡先は親族以外の記載は無しにすべき
 - 病院によって情報開示する親等が違うだろうとのことで現状維持
- ー 今後の展望
 - 通年で使用できるものとして新しいものを作成する(鈴木あ)
- ・競技委員会gmailが全委員に飛んでいなかった
 - 設定し直した

[牟田園委員の進捗報告]

- ・CIVL総会
- ・JHFサーバの暗号化対応
- ・オンラインコンテストの半自動化
 - エントリー時のチェックは今後鈴木由路が担当
 - GPS Dumpで距離を確認して、正式登録する
- ・Livetrack24大会モード使用料
 - 今後はお金が掛かる
- ・Flymasterライブトラックシステム
 - 総務省にダメ元で問い合わせしてみる(牟田園、大沢)
 - 窓口を上野さんに確認する(板垣)
- ・HSのスポーティングライセンス必須化

[議題]

- ・ルールの改定
 - ー Cat2では英語版の開催要項が必須となることをルールに追加する(牟田園)
 - ー 世界選手権代表の選抜フローを明文化する(牟田園)
 - 前々年度末の時点で世界選手権に出場する可能性の高い選手の中から選手会長を競技委員会が指名する
 - ー 2023年世界選手権の代表選抜ルールの検討(国内ランキングへの一本化)
 - 海外獲得ポイントをどうするか・・・(変換ルール、採用本数、世界選手権どうするか)
 - 変換ルール
 - 案A) 一律1.1倍する
 - 案B) シード係数をポイントにかける(上限は1.25(前回のプレ基準))1000点以上もOK
 - 採用本数
 - 国内の採用本数X本に対して1本を採用
 - (X=4ぐらいが妥当かな・・・)
 - 世界選手権どうするか
 - 案A) 採用する
 - 案B) 採用しない
 - ワイルドカード
 - ワイルドカードのルールは残す
 - 過去の3年間をサンプルして次回の競技委員会でパラメータを決める(あき)
- ※WPRSに統一する案もだが、国内ランキング案で検討を先行する
- ※選抜の大方針を明確にすべき
 - 世界選手権で高得点が取れる選手を選抜する
 - (結果、世界チャンピオンを輩出、国別順位が上位になる)

- FSとGPSDUMP(GAP2018)
→2020年から測地系はWGS84を採用する
FSとGPSDUMPは据え置き
- フライトコンテストの活性化
→日の出前、日の入り後のフライトは失格とすることを明文化する(牟田園)

- ・集計用PCの刷新
委員長会議で予算申請する(板垣)
見積もりを出す(牟田園)

・翌年の大会スケジュール

>クラス1

- 西富士@鈴木由路(1/12-1/14)
- 紀ノ川@トノエアー(2月中旬)
- 板敷@茨城ハング(3月中旬)
- 池田(未定)※日本選手権?
- EJC@NASA(9月か10月)※日本選手権?

>クラス5

- 足尾@日本選手権(4月)
- クラス5EJC(10月)

>日本選手権スケジュール

- 2015: 足尾
- 2016: 板敷
- 2017: 紀ノ川
- 2018: 西富士
- 2019: 池田(足尾)
- 2020: 足尾
- 2021: 板敷

・役割分担

- 板垣: 委員長
- 牟田園: 規則管理、HP管理
- 田中: 広報
- 鈴木(由): 会計
- 鈴木(あ): 議決管理

[持ち帰り事項]

(板垣)

- ・カテゴリ-2申請料を競技委員会の予算から捻出できないか委員長会議で起案する
→2018年度の委員長会議で再度起案する(板垣)
- ・競技委員会専用携帯電話の予算を申請する
→2018年度の委員長会議で再度起案する(板垣)
- ・承認フローの改善
→体験会の承認は競技委員会以外(スクール事業、振興、安全性)に移管できないか委員長会議で起案する(板垣)
- ・Flymasterライブトラックシステム
→総務省にダメ元で問い合わせしてみる(牟田園、大沢)
窓口を上野さんに確認する(板垣)
- ・集計用PCの刷新
→委員長会議で予算申請する(板垣)

(牟田園)

- ・タスクストップ時にFSで集計ができない問題を開発者に問い合わせる
→後日確認する(牟田園)
- ・Flymasterライブトラックシステム
→総務省にダメ元で問い合わせしてみる(牟田園、大沢)
- ・ルールの改定
 - Cat2では英語版の開催要項が必須となることをルールに追加する(牟田園)
 - 世界選手権代表の選抜フローを明文化する(牟田園)
→前々年度末の時点で世界選手権に出場する可能性の高い選手の中から選手会長を競技委員会が指名する
 - フライトコンテストの活性化
→日の出前、日の入り後のフライトは失格とすることを明文化する(牟田園)
- ・集計用PCの刷新
委員長会議で予算申請する(板垣)
見積もりを出す(牟田園)

(鈴木由)

- ・オンラインコンテストの半自動化
→エントリー時のチェックは今後鈴木由路が担当
GPS Dumpで距離を確認して、正式登録する

(田中)

- ・HPのトップ画像を差し替える
→今年中必ず対応する
- ・承認フローの改善
→チェックの負担を軽減するために、申請書類の競技規定はローカルルールに限定するように主催者に促す(田中)

(鈴木あき)

- ・緊急連絡カードの運用
 - 緊急連絡先は親族以外の記載は無しにすべき
→病院によって情報開示する親等が違おうとすることで現状維持
→通年で使用できるものとして新しいものを作成する(鈴木あ)
- ・ルールの改定
 - 2023年世界選手権の代表選抜ルールの検討(国内ランキングへの一本化)
海外獲得ポイントをどうするか・・・(変換ルール、採用本数、世界選手権どうするか)
 - 過去の3年間をサンプルして次回の競技委員会でパラメータを決める(あき)

(全員)

- ・世界選手権日本代表選手会長の役割を再検討する
→1年前の意思確認は選手会長の役割に追加していいのではないか。
シリーズ規則
(選抜された選手が世界選手権の1年前までに参加の意思を表明しなかった場合・・・)